

女夫石遺跡発掘調査速報

No.15

今回は、縄文時代の竪穴住居（たてあなじゅうきょ）の調査を少し紹介します。女夫石縄文人はどんな家に住んでいたのでしょうか？4千5百年の時を経て、当時の姿がよみがえります。よみがえるには皆さんの想像力も必要ですけど……。さて、発掘現場の様子を見てみましょう！ところで、体験発掘が大人気だったので、また開催します。10月21日（土）です。申し込みは山梨県埋蔵文化財センターです。



この点線の内側と外側で土の色が違っていたり、土器や石器の量が違っていたりします。そんなことに注意しながら竪穴住居跡の存在を確認します。



（上）床面に置いたかのような土偶の頭。何か意味があるのでしょうか？それとも偶然でしょうか？

（下）耳飾り、数が少ないので現在のおしゃれとは違うような気がします。どんな人がつけていたのでしょうかね。



沢リ：ジョレンで地面を丁寧に削っているね。何しているんだろう？

マキ：地面を削って、竪穴住居跡があるかどうかを探しているんだってさ。

沢リ：地面を削ると何で、竪穴住居跡があるって分かるのかな？だって家は埋まってしまって土の中なんですよ！

マキ：それにしても、たくさん土器がでてきているね。どんな遺跡でもこんなにでてくるのかな？

沢リ：遺跡の時代や遺跡の残りかたにもよるそうだよ。女夫石遺跡はとても残りが良くて、しかも縄文時代と平安時代の大きく二つの時期の遺跡があるから、土器なんかがたくさん出てきているんだってさ。

マキ：掘っているところをもっと細かく見てみようよ。なんだかたくさん土器が出てきているよ。

沢リ：本当だ！でも土器だけじゃないみたいだよ。土偶や耳飾りなんかも出ているみたいだよ。それに石皿もあるよ。この家に住んでいた縄文人はどんな生活をしていたのかな？考えるとワクワクするね！（っく）



石皿（いしざら）です。このくぼみを使って、ドングリや動物の肉などをこねたといわれています。今で言えばハンバーグをつくっていたようなものです。長野県の遺跡の中にはハンバーグが炭になった状態で発見された例もあります。縄文人の食べていたハンバーグはきっと素朴な味だったのでしょうか！？

竪穴住居の内側に埋まっている土の中から出てくる物の多くは、竪穴住居が使われなくなった窪地に捨てたものです。竪穴住居に住んでいた時の状況を示すものは数少ないです。

この竪穴住居では、床に接して、石皿・土偶・耳飾りなどが発見されました。床にあるので竪穴住居から住んでいた人が出ていった直後の状況を示している可能性が高いです。まだまだ使うことができる石皿を伏せて置いて家をでたのはなぜなのでしょう？

作成：韮崎市教育委員会 教育課 生涯学習担当 「UT」

0551-22-1111（内269）平成18年9月27日